

「政治学」試験問題（2004年度 月曜3限）

あなたは、駅から自宅への道を歩いていた。夕方の、もう暗くなりかかった時刻だった。もう住宅街にさしかかり、人通りもあまりない。西高東低の気圧配置で、北風が身にしみる…

すると、夢ではないのに、目の前をドラえもんが歩いている。ドラえもんは、なにやらぶつぶついいながら、おなかのポケットの中をごそごそしているのだ。あなたは、「やっぱりドラえもんって、普段はポケットの中を整理していないのか！ いざという時、いつものび太が文句をいっていたもんね。」と思いながら、家への道を急いだ。

しばらく歩くと、ドラえもんは道を曲がって路地に消えた。「のび太の家って、こっちだったのかあ」と思いつつ、そこを通り過ぎようとする…

なにかが落ちていいる。どうもドラえもんが落としていった「道具」のようだ。あなたは、それを返そうと、辺りを見回したのだが、もうドラえもんの姿はどこにも見えない。どうしよう？ 交番に届けようか？ でも、「ドラえもんが落としました」と言っただけ、信じてくれないだろうなあ…。結局、あなたはそれを、家に持ち帰った。

自分の部屋に入ってから見てみると、なんとその「道具」には、『世の中の歯車が少しずつ変わるスイッチ』と書いてある！「えっ！ これって本当にドラえもんの道具？ それにしては無気味だよね～。どっちかというところ、ドラえもんの原作者の片割れのかいっている、『笑う…』に出てきた方がいい感じだけど…」

でもその「道具」は、あなたの目の前にあるのだ。さてこれをどうしよう？ 黒い小さな箱の中央に、小さな白のスイッチがある。押ししてみようかな？ でもやっぱりやめておこうかな？ あなたは、試験の近い「政治学」のノートをぱらぱらめくりながら、迷ってしまった。

で、結局あなたは、そのスイッチを押した。「結局は深く考えずに」といったところが正確なところだろうが、「まあ、就職活動もうまくいきそうにないし、なにか世の中が変わった方がいいかな？ それに、あの『撃墜王』といわれている、宮下先生の頭の歯車が変わってくれたらいいかも！」という気持ちがなかったかというところ、否定はできない。だって、このままいっても、人生面白いことはなさそうだし…

しかし、スイッチを押してしばらくすると、その「道具」は消滅してしまった…。「えっ？ やっぱり夢か幻想だったのかなあ」。家族や友人に話しても信じてもらえないし、あなたはその記憶を封印した。

そして、10年が過ぎた… はずである。気が付くとあなたは、なぜか日本国の内閣総理大臣になっていた。

あなたは、「えっ！」と思ったのだが、しかし気持ちは前向きだった。「よし、学生の頃『政治学』で習ったように、民主主義をさらに徹底させよう！」

なぜそんなに素直に、学生時代に講義で聴いた内容に今さら共鳴したのかはわからない。けれどあなたは、あの「冷血漢」が最後の講義で言っていた、「一般市民の政策決

定への参加による民主主義の成熟」を実現しようとしたのだった。ちなみに、あのスイッチを押した効果かどうかは不明だが、あなたは無事、「政治学」の単位を取っていたのである。

まずあなたは、政策決定への一般市民のさらなる参加の方法を検討するために、懇談会を組織した。国民の間から無作為（そうすることで、参加に熱心な人の声も聴けるし、消極的な人の声も聴けるはず）に選んだ人たちで構成する、政治参加の拡大の要望をくみ取る懇談会である。

ところが…

いざ懇談会を開催してみると、「政治参加に熱心な人もいるはず」どころか、みんな口を揃えて言うのだ。

「政治参加の拡大なんてやめて下さい！ いちいち私たちに『どうする？』ときかれても困ります！」

「偉い人たちが適当にうまくやって下さいよ～。こっちは、毎日の仕事で忙しくて、とても『政治にもっと参加しよう』なんて話につきあってられませんよ～。」

でも、それは…。あなたは、学校の教科書に載っているような論理で説得しようとしたのだが…

なぜか、彼 / 彼女らは、「政治に参加したくない」といいながらも、この問題に詳しい。もしかしたら、みんな、宮下先生の政治学を取っていた？ …そんなはずはないよね～！

彼女 / 彼らは反論する。

「だってこちらは選挙の時もポスターの顔とか見て、テキトーに投票してるだけですよ。一応は選挙には行っていますけど。でもそれで十分でしょう？ 国民としての義務は果たしていますし。それ以上、どうしろって言うのですか？」

「いいですか総理、国民の間には、教養のある人とない人、物事を公正・冷静・合理的に考えることのできる人とできない人、いろいろな人がいるんです。それをいっしょくたにして、『政治に参加して、みんなで考えよう』といっても、それは無理と言うものでしょう？ 私らは、政治なんて難しい話は頭のいい人に任せて、日々の暮らしに集中したいのですけど」

「だいたい、政府が十年以上前から『競争原理』を言い出して、『自分のことは自分でなんとかしろ、がんばったらがんばただけのものは保証するから』と言ってきたんですよ。逆に言えば競争に負けたらそれまで、っていうことじゃないですか。そんな、政治に参加している暇なんてないですよ！」

しかしあなたも内閣総理大臣。ここで言い負かされては沽券（こけん）にも関わる。さあ、そのような人たちに対して、「政治参加の拡大」がやはり必要だと納得させられるだけの主張、そしてそれを含めてどのような社会を作り上げていこうと考えているのかというあなたの「所信表明」を、答案用紙に展開しなさい。

その際、「政治参加の拡大」については、もともと反対であるという履修者もいるだ

ろうが、役柄になりきって論じること。

なお、答案を書く際には、以下に挙げた 12 の語のうち少なくとも 7 つ以上をそのまま使って、解答すること。そして、それらの語をそれぞれ最初に使った箇所では、その語を で囲むこと。もちろん、下記の語群以外にも、この講義の内容を参照しながら、多角的に論じることが望まれる。

最後に、「就職が決まっているので単位がほしい」などの記載のある答案は無効とする。時間に余裕のある場合は、講義・試験についての感想を末尾に書いてほしい（ただし、採点対象にはならないので、時間のない中、無理に書いてくれなくてもいい。後に会った時にでも聞かせてくれれば、その方がいいだろう）。

語群：(省略)